

マイクロ海洋生物による海洋環境保全・生物生産に関する技術開発

事業総括

緒方 利隆 長崎商工会議所相談役

研究統括

平山 和次 長崎大学水産学部名誉教授

新技術エージェント

岩永 充三 (財)長崎県産業振興財団
企業インストラクター

黒川 孝雄 (財)長崎県産業振興財団

中核機関

(財)長崎県産業振興財団

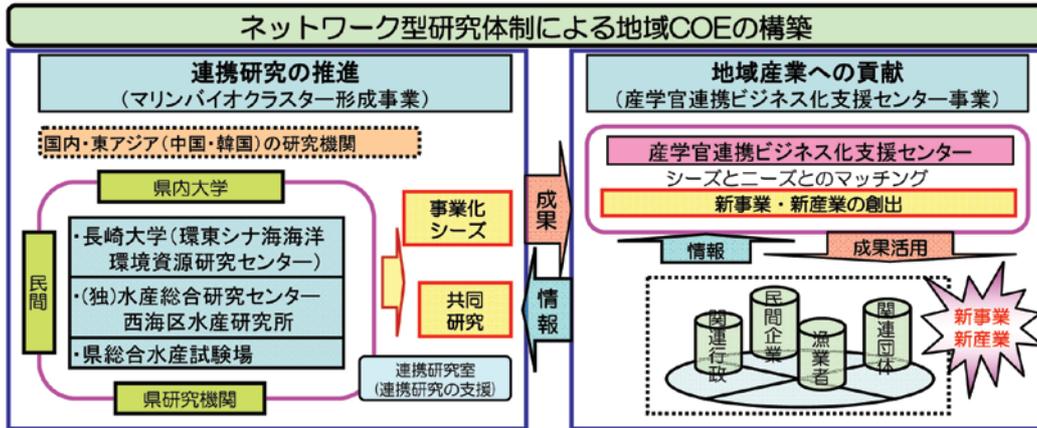
行政担当部署

長崎県科学技術振興課

コア研究室

長崎県総合水産試験場内

地域COEの構築への取り組み



県と県産業振興財団は、県内の研究機関や産業界が一体となった地域イノベーションの創出を推進していく

新技術・新産業創出の取り組み

耐久卵量産技法と保存技法の開発

仔魚の最も優れた餌であるワムシを耐久卵で保存しいつでも供給することが可能となりました。これまでの研究で、耐久卵を10億オーダーで生産できるようになりました(クロレラ工業から販売)。



海産ワムシ類

マハタ種苗生産技術の開発

種苗量産技術を確立して民間種苗機関へ技術移転するとともに、得られた種苗を用いて漁業者による養殖試験を実施中です。



マハタ(日令70日)

有害・有毒プランクトンの識別・同定

赤潮プランクトンを迅速に識別・同定するための図説を作成しました。動きを比較できる動画も添付しています。これにより、赤潮の被害を軽減することが期待できます。

カレニア ミキモトイ (渦鞭毛藻)
Karenia mikimotoi

直線型の上維溝

↑ 遊泳方向

大きき：長さ 18-37 μm、幅 14-35 μm
 形態：細胞は平たい。横に一周する横溝と縦に走る縦溝がある。
 葉緑体は多数あり、核は正面右下にある。鑑版はない。
 動き：ひらひらと回転しながら活発に遊泳する。
 色：黄褐色

類似種：カレニア属の別種と、細胞と葉緑体の形状が似る。

カレニア ブレビス
(*Karenia brevis*)

・細胞の幅が広い
・上部に鑑版がある

カレニア ディジタータ
(*Karenia digitata*)

・平たくない

動画 No.

別名：Gymnodinium mikimotoi (ギムノディニウム ミキモトイ)、
 Gymnodinium nagsakianum (ギムノディニウム ナガサキエンセ)、
 Gymnodinium sp. 65 号型

漁業被害：赤潮を形成し、数千 cells/ml になると魚介類のはい死を起こす恐れがある。
 ハマシのほか、マダイ、アワビ、アコヤガイ、アカガイ、ナマコ、マハゼ等がはい死。

赤潮発生：昭和40年に大村湾で発生して以来、76件の事例(被害26件)。
 被害発生：排鳥(55, 57)、宇佐湾(56, 62, H12)、平戸(55)、五島(55, 61, H12)、九十九島(55, 61, H5, 11, 12, 13)、大村湾(H12, 13)、横溝(H12)

被害対策：500 cells/ml 程度で観測が望まれる。
 出現時の水温：9.3-31.0℃
 出現時の塩分：15.64-35.93
 増殖適水温(最適水温)：12.5-30℃(30℃)

長崎周辺海域の有害植物プランクトン